

戦わないためのセンサー～長崎原爆の日に思う



8月6日、8月9日、8月15日。夏休み中には戦争・平和について考える日が何度もあります。9日は長崎原爆の日。長崎に原爆が投下されて79年目となり、年々戦争を体験された語り部の方が少なくなってきたおり、高齢の語り部の方が、それは自分の命ある限り語り継いでいくと話されている姿が印象的でした。数年前、突然、我が家の庭

の木にカブトムシが大発生したことがありました。しばらく見ていると樹液のところでカブトムシ同士が角でお互い餌場を確保しようとしていました。我が子も小さいころ殴り合いをせず、頭と頭を押し合っって兄弟喧嘩をしましたのでそのことを思い出しながら見ていましたがすぐに片方のカブトムシが方向を変え、逃げていきました。カブトムシの角は戦いのためではなく、戦わないためのセンサーであると後でどこかで読んだ記憶があります。カブトムシだけに限らず、鶯は美しい鳴き声で縄張りを守り、クジャクは鮮やかな羽をしろげ、ステップを踏み、他の雄を寄せ付けないようにすると言われます。戦いをしないためのセンサーを持つカブトムシ、戦いをダンスや歌唱に変える鳥たち…。人間はこれまで数えきれない争いを繰り返しています。争いは人を人として認めない嫉妬や憎悪の心から作り出されます。SNSで簡単に悪口を書き込んでしまうなど身近なところにも戦争につながってしまう行為は行われているように思います。嫉妬の心は、自分自身の不安から生まれ、相手を妬み、攻撃することにつながります。いじめや差別もすべてここから起こってくるのではないのでしょうか。私たち大人は、子どもたちが自分自信をまずは大切な存在であり、自分と同じくらい友だちも大切だと思えるように努めていくことが大切だと思います。コロナ禍も拍車をかけていますが、価値観の多様さが、理解ではなく、関わりをどんどん切っていく分断していく時代だからこそ、人と人をつないでいくことが家庭・学校においてますます必要なのではないのでしょうか。

自己限定の思い込み

最近、かつての同僚からの相談を受けた際、しばらくは相手の話をじっと聞いていましたが、最後にその職員が言った「無理です。私にはできません。」という言葉に、私は次のような話をしました。「バレーボールやバスケットボールのコート用に貼られた線の上を歩くことはできて、それが断崖絶壁であればたちまち足がすくんで歩けなくなってしまいます。これは脳が、これは無理だと自己限定の思い込みに支配されているからそうなるらしいです。脳は「無理だ」「不可能だ」と思った瞬間、その能力を封じ込めて本当にできなくしてしまうと言われています。」と…。

私は、その職員に「必ずできるよ。だから、不安になったら自分に“私はできる”と強く思うことだよ。」と伝えました。その職員は別れ際には顔の表情も明るくなっていました。単に「無理だと思わず、できると思ったらできる」というだけではいけません。基本的に人はみな「よくなりたい。できるようになりたい。」と欲していると思っています。でも、自信がなくて不安な時にふと誰かに背中をおしてほしい…その役が今回、奇跡的もできてよかったと心をなでおろしています。